

連載

ビジネス的発想からの提言(10)

宣教の為に、先ず

『輝く信徒』を育てよう

イエスキリスト教会・家の教会伝道師
エリヤ会会員 元カネボー薬品社長三谷 康人
Mitani Yasuto

マタイ伝五章二四節「あなたがたは、世の光である」二六節「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたの良い行いを見て、天にいますあなたがたの父をあがめる様にしなさい」

昨年の宣教二五〇周年大会は画期的で、福音派、聖霊派、リベラル派の三派が宣教の為に一致協力を誓った。又、日本伝道会議では三つのパラダイムシフトが提唱された。

①エゴイズム(自分中心主義)
②マイチャーチイズム(自教会中心主義)
③デノミネーションナリズム(教派エゴ)から、宣教の為に協調へのパラダイムシフトをしよう。

素晴らしい大会宣言をしても、教会が今迄と余り変わらないエゴ的な状態で推移すれば、一〇年二〇年先に大変な事になると予想される。現在、既に高齢化社会を

迎え、減少傾向の受洗者数よりも召天者数の方が上回る傾向になってきている。

どうしたら良いのであろうか。先ず聖霊に満たされた『輝く信徒』を育てる事。そして信徒が喜んで証をしながら伝道する様になると思う。

今回は現在の大不況の中で、伸びている企業の事例から学んでみよう。

軽井沢にある旅館

「星のや軽井沢」の事例
社員満足が顧客満足へ

この不況の中でも売上げと利益が過去最高の伸びを続けている。三代目の星野社長はアメリカの大学でホテル学科を卒業して、三三歳で社長になった。社長はアメリカで学んだ知識をもとに各セクション毎の仕事をマニュアル化し、その実行を強いた。その結果、板前、仲

居等のベテランが猛反発して多数が二斉に退社した。旅館は人手不足で倒産の危機に瀕した。(エリヤ会の調査によれば、礼拝出席者の約一〇倍以上の人が教会を去っている)そこで、社長はどうしたら社員が辞めないで貰えるかを考えた。そして社員に楽しんで仕事をしてもらう様に工夫した。(教会では信徒が聖霊に満たされ喜び輝く様になると、自ずと隣人への伝道が増え未信者の来訪が増える事だろう)

①従業員に自由度を与える(脱マニュアル化)(御霊は自由、脱律法化)
②お客から褒めてもらう事(一番やる気の効果)(未信者の救いの喜び)

「社員の満足度」が高まり「お客満足度」が上り、リピーターが増加した。

『ミッション』・『コンセプト』の

共有化から自発的な力が

二〇〇二年、独身女性向けに作られた小淵沢の「リゾナル」ホテルは、稼働率が非常に悪く倒産した。再建を任された星野社長は、最初に全従業員を集めて、このホテルの「コンセプト」を討議し考えさせた。全員が納得一致するまで議論させた。当初、社員はそのような事を考えた事もなく戸惑ったが、議論を重ねて最後は全員で

「子供連れで家族サービスの為にリゾートに来るお客」と言うコンセプトに決めた。(教会の「ミッション」は何か、ビジョンは何か、を全員が神の前に出て聞きつつ討議して、一致した結論を共有化する)

新しいコンセプトに従い、子供が喜ぶ大自然の中のレジャー施設、親達を楽しむショッピング施設等をつくった。そして営業を再開して三年目に黒字化した。今は申し込みが多くて予約待ちの状態と聞く。従業員は知らない間に経営者意識、即ちオーナーシップを持ち、喜びを持って「お客満足」の為に進んでお客に仕える努力をする様に変わった。(神の前に出て「ミッション」の共有化をして行く時、信徒は自己中心的な信仰から神中心的な信仰へと成長し、聖霊に満たされ、喜びが湧いてくる。その時、自ずと自分の隣人即ち家族、友人達を愛し仕える事で伝道し、救いの喜びを味わう様になる事だろう)

御霊に満たされた『輝く信徒』が育つ時、外の社会に向かつての本当の宣教が始まるだろう。

ある人が言った「信徒一人一人が喜んでいると、人は見たくなって集まってくる」